

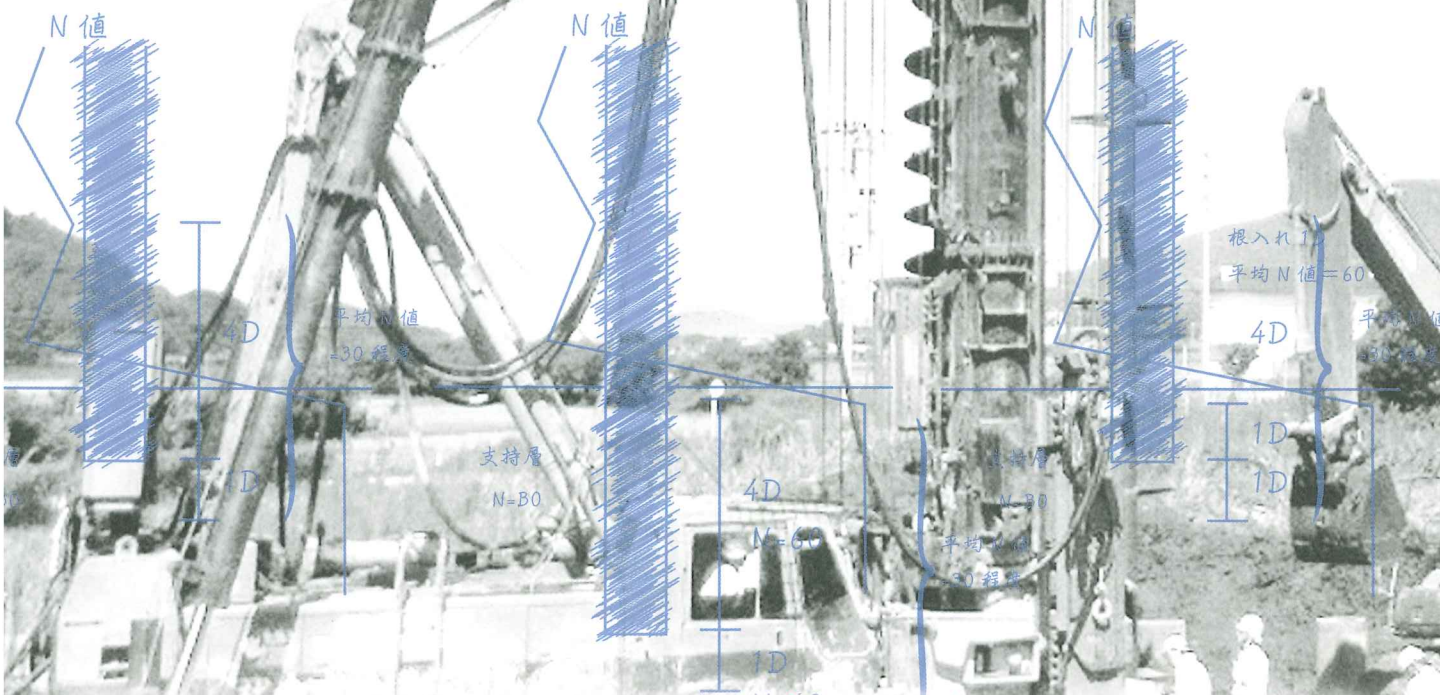
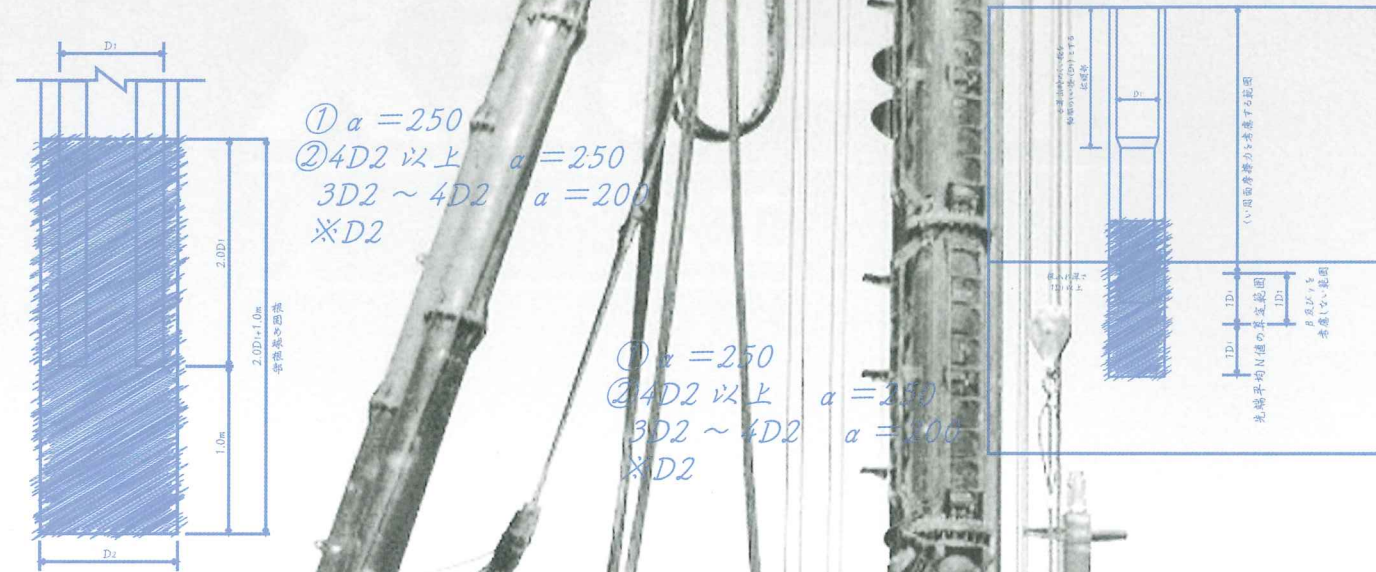


新たなスタンダード。
HI-BEX工法、デビュー！

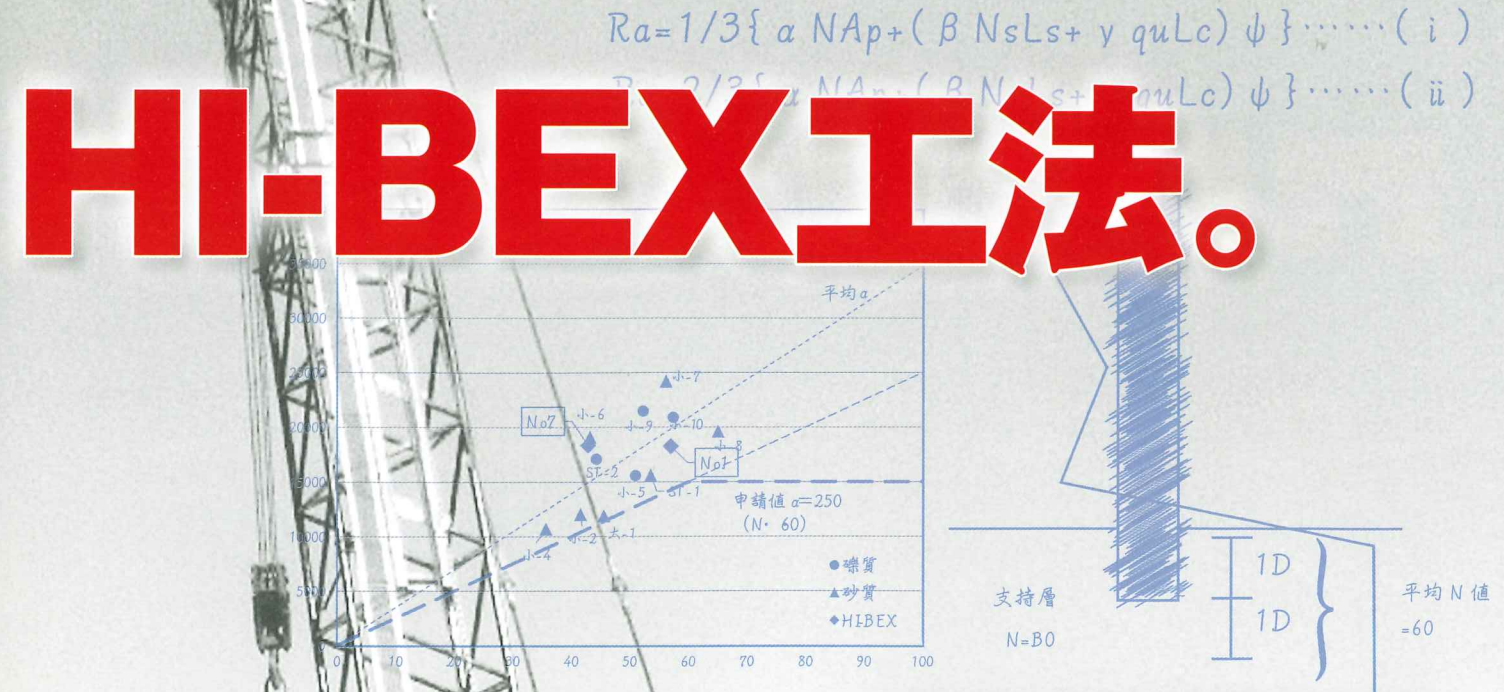
HI-BEX

工法

基礎杭の新解答、HI-BEX工法。



**旧建設大臣認定のプレボーリング拡大根 固め工法を、
時代に先んじてさらにパワーアップ。**



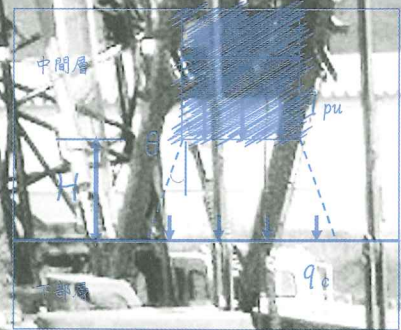
α の平均値 $\alpha_{\text{mean}} = 327$
変動係数 $V = 0.165$

定義 $m=13$

$$a = (1 - m) \cdot a_{\text{mean}} = 257$$

$$R\alpha=1/3 \nmid \alpha NAp+(\beta$$

番号	試験名	杭径 D(mm)	杭長 L(m)	中間層厚比 H/D
no.1	米原-1	0.30	20	2.13
no.3	米原-3	0.70	20	2.65
no.4	米原-4	1.05	20	1.78



④: 根固め球根径

⑤: 根固め先端から下部層までの距離



HI-BEX工法

旧38条認定工法であるBESTEX工法を
「2015年 建築物の構造関係技術解説書」
「H28年国土交通省告示第468号」などに適合するようリニューアル。
性能アップとともに施工品質と信頼性を向上させた、新しいコンセプトの工法です。

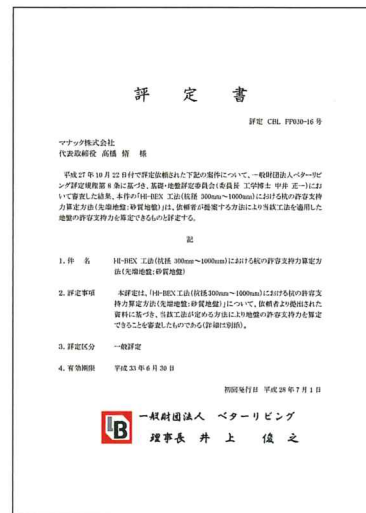


建築 国土交通省告示第1113号第6

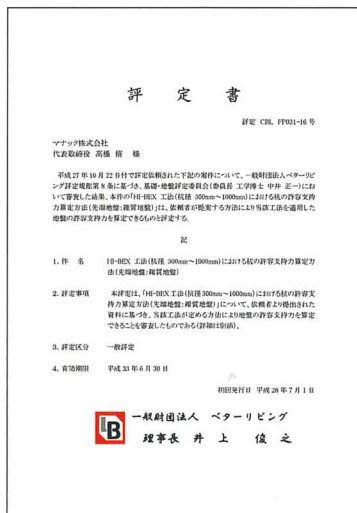
先端支持力係数 $\alpha=200$ $\alpha=250$
杭周面摩擦係数(砂質) $\beta=10/3$
杭周面摩擦係数(粘土質) $\gamma=0.5$

(一財)ベターリビング 一般評定工法

評定番号(砂質地盤)
CBL FP030-16号



評定番号(礫質地盤)
CBL FP031-16号



適用範囲

適用する地盤の種類

基礎杭の先端付近の地盤
砂質地盤、礫質地盤

基礎杭の周囲の地盤
砂質地盤、粘土質地盤

施工地盤面から杭先端までの
最大施工深さ 65m

HI-BEX工法の特徴

1 杭先端下方の地盤の取扱いを規定

支持層下方に粘土質地盤がある状況で載荷試験を実施して、支持力性能を解析。
支持層が薄層の場合の取扱いを規定しています。

2 H28年国土交通省告示第468号に基づく施工管理指針

H28年国土交通省告示第468号「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」
に基づき、着工前検討会や支持層の確認方法などを施工管理指針に規定しています。

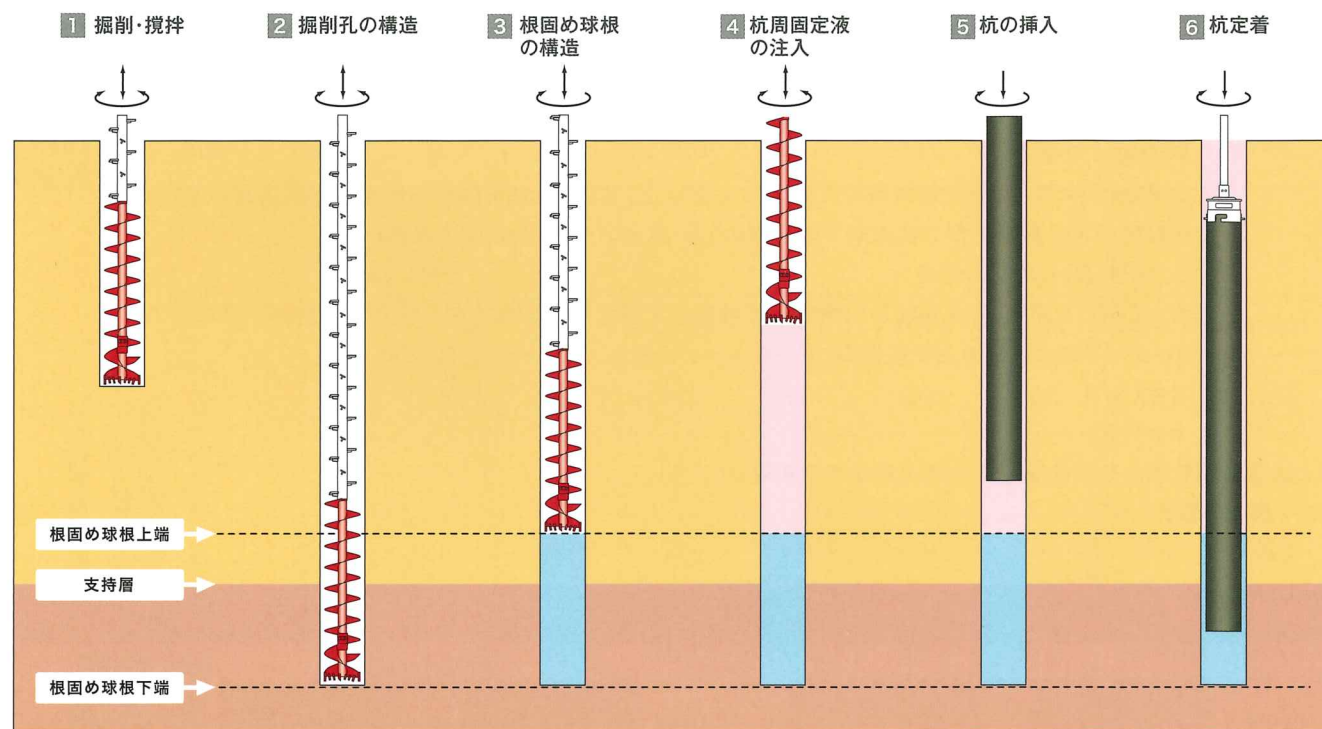
3 施工会社はすべて第三者機関による施工品質評価を取得

開発会社および承認施工会社は、(一財)ベターリビングによる施工品質に関する評価を取得しています。

4 杭先端N値の平均範囲は杭先端より上方1D+下方1Dです

杭先端N値の平均範囲を従来の「杭先端より上方4D+下方1D(D:杭径)」から
「杭先端より上方1D+下方1D」としました。支持層への杭の根入れは最小限ですみます。

HI-BEX工法の施工手順



地盤の許容支持力

i) 長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力 (kN)

$$Ra=1/3\{\alpha \overline{N}Ap+(\beta \overline{N}sLs+\gamma \overline{qu}Lc)\psi\} \cdots \cdots (i)$$

ii) 短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力 (kN)

$$Ra=2/3\{\alpha \overline{N}Ap+(\beta \overline{N}sLs+\gamma \overline{qu}Lc)\psi\} \cdots \cdots (ii)$$

Ra：地盤の許容支持力(kN)

$\overline{N}$ ：くい先端から上方に1D₁、下方に1D₁の区間における地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値(回)

ただし、30≦ $\overline{N}$ ≦60とし、60を超える場合は60とする。また、 $\overline{N}$ を算定する際の個々のN値の上限は100とする。

Ap：基礎ぐい先端の有効断面積(m²)

$$Ap=D_1^2 \cdot \pi / 4$$

D₁：くい径(m)

$\overline{N}s$ ：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値(回)

ただし、4≦ $\overline{N}s$ ≦30とし、30を超える場合は30とする。

Ls：基礎ぐいの周囲の地盤のうち砂質地盤に接する長さの合計(m)

$\overline{qu}$ ：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値(kN/ m²)

ただし、40≦ $\overline{qu}$ ≦200とし、200を超える場合は200とする。

Lc：基礎ぐいの周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する長さの合計(m)

ψ ：基礎ぐいの周囲の長さ(m)

$$\psi=\pi \cdot D_1$$

α 、 β 及び γ ：基礎ぐいの先端付近の地盤(地震時に液化化するおそれのある地盤を除く)又は基礎ぐいの周囲の地盤(地震時に液化化するおそれのある地盤を除く)の状況に応じた載荷試験により求めた数値

H/D₂≧4.0の場合

$\alpha=250$ (ただし、杭先端に深のN値が $\overline{N}$ の値以上、若しくは杭先端から杭先端下部地盤の上端までのN値が $\overline{N}$ の値以上かつ杭先端下部地盤のquが400kN/ m²以上であること。)

3.0≦H/D₂<4.0の場合

$\alpha=200$ (ただし、杭先端から杭先端下部地盤の上端までのN値が $\overline{N}$ 以上かつ杭先端下部地盤のquが400kN/ m²以上であること。)

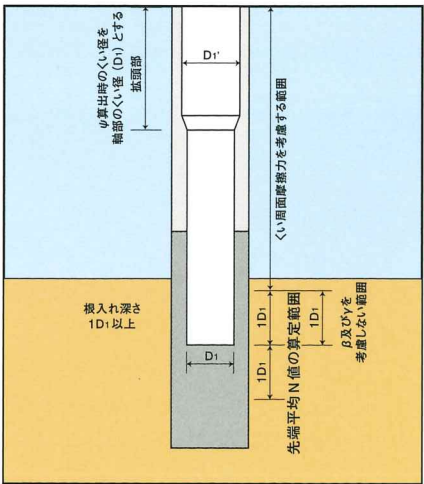
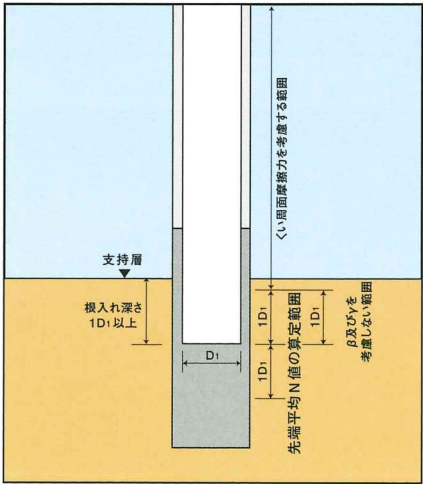
$$\beta=10/3$$

$$\gamma=1/2$$

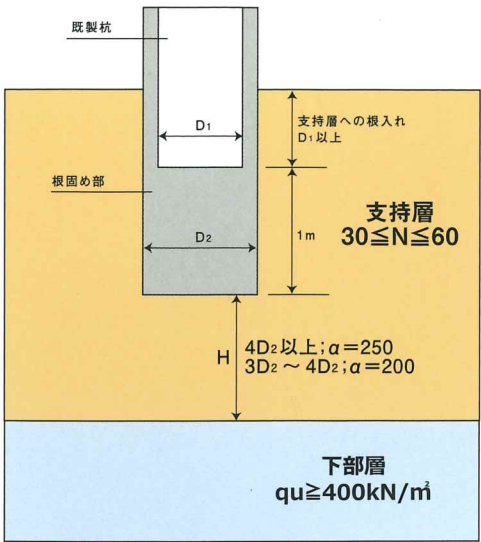
H：根固め部先端から杭先端下部地盤上端までの距離(m)

D₂：根固め部径(m)

杭先端部



杭先端下部地盤の取扱い



先端支持力係数αについて

① 支持層が比較的厚い場合

$$\alpha=250$$

② 支持層が薄層の場合

根固め下方の層厚(H)が

$$4D_2 \text{ 以上 } \alpha=250$$

$$3D_2 \sim 4D_2 \quad \alpha=200$$

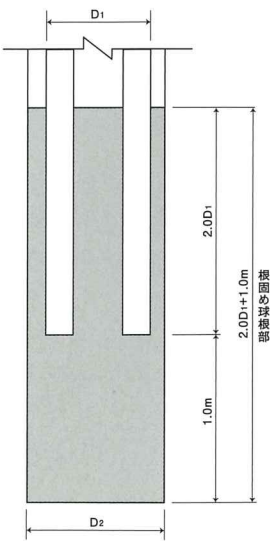
※D₂：根固め径

Hが3D₂未満の場合等、上記以外の場合における許容支持力については、別途検討の上、設計者判断により設定することが可能であるものとする。

根固め部の形状

ストレート杭

杭径 D ₁ (mm)	300	350	400	450	500	600	700	800	900	1000
掘削径 D ₂ (mm)	400	450	500	550	600	750	850	950	1050	1150



拡頭杭

呼び径	3035	3040	3540	3545	4045	4050	4550
軸部径 D ₁ (mm)	300	300	350	350	400	400	450
拡径部径 D ₁ '(mm)	350	400	400	450	450	500	500
掘削径 D ₂ (mm)	450	500	500	550	550	600	600

呼び径	5060	6070	7080	8090	80100	90100	100110
軸部径 D ₁ (mm)	500	600	700	800	800	900	1000
拡径部径 D ₁ '(mm)	600	700	800	900	1000	1000	1100
掘削径 D ₂ (mm)	750	850	950	1050	1150	1150	1250



注意

- ①同工法を用いて建築物の基礎を設計するにあたっては、本カタログを参考にするとともに、建築基準法や関係法規、指針、基準等を遵守して、適正な設計をしていただきますようお願いいたします。
- ②施工要領や管理基準については詳しく記載しておりません。工事関係につきましてはお問い合わせください。
- ③施工及び施工管理は当社が行っております。お問い合わせは当社または当社販売店をお願いいたします

※カタログの掲載内容及び仕様は、予告なく変更することがあります。